

山田線脱線現場を視察

「安全第一」

中央本部執行部は12月19日、菅野中央執行委員長以下イーストユニオンメンバー9名とJR連合 中山政治部長の合計10名で山田線の脱線現場を視察した。当日は、晴天に恵まれるなか2台の車に分乗し、途中休憩した北上山地（区界峠）にある区界駅では昨日来の雪が残っており標高の高さを実感しつつ脱線現場に到着し視察した。

脱線事故は昨年12月11日夜、前日からの大雨で線路脇斜面から大量に流れ込んだ土砂に、上り盛岡行の1両編成の列車が乗り上げ脱線をした。乗客は22名であった。運転士と乗客合わせて16名の方がケガをしたが、幸いにも軽傷であった。

脱線車両は、今なおブルーシートに包まれ移動できない状態で置かれたままとっている。

現場は今でも土砂が動いており、新たな崩壊が予想されるため、安易に近づくことが出来ない状況が続いている。大変困難な復旧作業は、併せて河川脇の斜面現場のため作業スペースが狭く限られたなかで復旧工事が進められている。JR盛岡支社によると、「2017年10月の運転再開を目指して」とプレス発表されたが、安全第一で無事に作業を終えて欲しいと願ってやまない。



仮設の工事用橋りょう

山田線の運転状況は、現在も上米内駅～川内駅間で運転を見合わせてる。さらに、同線区は今年8月30日に岩手県に上陸した台風10号の影響でも線路への土砂流入や路盤流出などが発生し一部運休区間があったが、その区間は12月9日運転再開になってる。山田線は盛岡駅～宮古駅間と宮古駅～釜石駅までの路線があります。

宮古駅～釜石駅は、東日本大震災のため現在、長期不通区間となっているが、2018年度内の開業を目指し鉄道の復旧及び三陸鉄道(株)への移管に向けた工事を精力的に進めているところです。

インフラ企業としての私たちJR東日本は、自然災害や想定外を理由に「鉄道輸送の安全確保」を脅かすわけにはいきません。更なる安全への挑戦を、労使一体となって取り組んで行かなければならない。そのための「訓練と教育の在り方」「技術継承」「人材育成」に、イーストイノベーションとともに果敢に取り組んで行くことを現地で誓ってきました。

